

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	京都大学	整理番号	D01
プログラム名称	グローバル生存学大学院連携プログラム		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラム コーディネーター	寶 馨
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル生存学（GSS）のアイデンティティ及び基本概念の構築については、未だ検討途上にあると推察される。自然災害から人為的災害、パンデミックまでを含む多元的なハザードに対して、学際融合的に統一された固有の分析視角や概念の検討が引き続き望まれる。 ・ 中間評価の指摘に対応して当初の計画を着実に実施しており、所要の体制整備等も確実に進められている。 ・ 本プログラム専用のスペースや教員居室も準備され、プログラム推進のための施設も整備されており、今後の有効活用が期待される。 ・ 実施計画については、e-ポートフォリオにおいて一部遅延が認められるものの、全体としては順調に実施されている。 ・ 多くの国際的な取組が積極的に実施されており、4つの安全・安心分野（巨大自然災害、人為災害事故、地球環境変動、食糧安全保障）においてグローバルに活躍するリーダーの養成が期待される。 <p>○学位プログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コースワークについては、学位規定を定めることにより、ルールを明確化し、関係者間の相互理解を深めている。 <p>○組織・マネジメント体制等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員、メンター等の指導・支援体制が順調に構築・運営されている。 ・ 大学全体の中長期的改革構想の中で、学長を中心としたマネジメント体制が確保されている。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優秀な学生を確保するために、3年次編入等の工夫がなされている。 ・ e-ポートフォリオの構築と活用、東一条館の完成によるプログラム用スペースの整備等、中間評価時の留意事項への対応がなされている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル生存学（GSS）のアイデンティティ、基本概念については、教員と学生とで協働して構築する必要がある。 ・ グローバル生存学大学院科目群の必修科目の講義では、グローバル生存学（GSS）においてそのベースとなる一貫した考え方について、担当教員間での共通認識を更に図るとともに、教員と学生との討論の時間をより多く取れるよう更なる工夫が必要である。 ・ e-ポートフォリオについては、学内の他の類似システムとの兼ね合いも含め、使い勝手の向上に関する更なる検討が必要である。 ・ GSS サロンでは、教員と学生の討論とともに、教員同士の討論も取り入れることを 			

検討されたい。

- インターンシップ先の企業について、製造業が多いが、本プログラム学生の専門性を活かしつつキャリアパス開拓に資するよう多様な組織を準備することが必要である。
- 本プログラム修了生のキャリアパス、将来像について学生が自主的に考えられるよう、情報提供等において更なる取組が必要である。
- 本プログラムへの支援期間終了後のプログラムの持続性、今後の展開について、引き続き検討が必要である。